
ゆい

新品の靴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆい

【Nコード】

N6305Q

【作者名】

新品の靴

【あらすじ】

その少女は何を知り、何を思っているのでしょうか？

私の名前はゆいです。

私はいつも人から変な目で見られます。

原因はわかっています。

それは私が変な人で、よく変な行動を起こすからです。

私の親はそれをみて何とも言えない目をします。

私が外で変なことをすると静かに私を家の中へと入れます。

私は猫を飼っています。

でもみんなには見えないようです。

猫の名前はゆい、といいます。

私がゆいと話すときは誰にも見られないようにします。

誰かの前でゆいと話すとき怒られるからです。

いつも私はそのせいでふがいない思いをします。

みんなどうしてゆいを見無視するのでしょうか。

みんなどうしてゆいを変な目で見るのでしょうか。

外へ出て、近所の人たちにみられるとたまらなくなります。

優しく接してくれてるけど、私がいつも通りにしているとすぐにどこ

かへ逃げるように行きます。

私と一緒に居るのを見られたくないのです。

私はいつもゆいとだけ遊びます。

今日はかくれんぼをしました。

ゆいは隠れるのがうまいのに、私は隠れるのがとても下手だから、

いつも私がおになっっている感じです。

私は楽しいのに、どうして他の人は悲しそうな目を私に向けるんだらう。

電車に乗っても、みんな私を見てくるのに、目を合わせようとする
とみんな目を背けるの。

そういう時私はゆいをぎゅっと抱きしめる。

ぎゅっと抱きしめてじつと時間が過ぎるのを待つ。

小学校の時は小さい子から石を投げられたこともあった。

そんな時もいつもゆいを守ってくれた。

小さい子を毛を逆立てて威嚇してくれたし、怖くて足がすくんだ私を引っ張って行ってくれた。

時には日曜日の昼下がりに家の窓に石が投げられることもあった。

ゆっくりしていたら、突然ガシャーンと音がして、子供たちが笑いながら走って逃げるのが見えた。

私はゆいがいるからいいけれど、お母さんはとっても悲しそうな顔をするの。

そういう時は私もお母さんも何も考えず片付けをして、なにもなかったように、あったかい紅茶を飲むの。そういう時ゆいは楽しそうに私たちの周りをくるくる回ってるの。

でもそういうことがあった後、突然お母さんが泣き出すこともある。私のせいでこうなったのに、なんだか申し訳なくなって、そういう時はゆいのお話をするの。

ゆいとゆいのお話。

私と私だけが見える私の猫のお話。

私は幸せだった。

このままでいいと、心の底から思ってる。

知らない人は怖い。知ってる人でも怖い。人が怖い。私はただ普通にしてるだけなのに。

お母さんに優しい男の人でも、お母さんがいなくなると急に私に死ねって言ってくる。

キチガイは喋るなど。

目障りだと。

夏の日ってさ、急に雨が降ってくることあるでしょ？しかも凄い勢いで。

私は、そういう時、あまりにも突然に起こりすぎて、どうしたらいいかわからなくて、ずーっと雨が止むまでつたってるの。

みんなの前だけ私に優しくしてくれる人達が変わる時も、私はそんな風になるの。

死ねとか頭がおかしいとか言われた時も、ずっとつつ立ってるの。そういう日は、しょうがないなあ、って呟いて、早めに寝るの。

温かい布団に包まれて。

次の日は、暖かい日差しに包まれて起きるの。

うーん、って言うってのびをして、朝ごはんを食べに階段を下りて行くの。

それで終わり。それでいつも通りに戻れるの。

死ねとか頭がおかしいとか時にはもつとひどいことを、豚とか、家畜とか言われた時でも、それでもいつも通りに戻れるの。

階段を下りるとお母さんがいるし、ゆいも元気だし。

私は、そんなことが、いろんなことがあったりしながらも、そんな毎日が幸せだった。

私は、幸せだった。

障害者とかキチガイとか呼ばれる私は、それでも、誰よりも、幸せだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6305q/>

ゆい

2011年2月7日07時55分発行